

令和5年度「民学産公」協働研究事業

アートコミュニケーション活動を普及展開させる ワークショップや人材養成カリキュラムの研究事業

～芸術・文化を介し多様なコミュニケーションを育むまち三鷹に向けて～

成果報告書

まちづくり研究員 1期生 林 賢

令和6年（2024年）2月

目次

1. 本事業の概要	4
(1) 目的	
(2) 背景	
(3) 協働研究事業の期間	
(4) 申請団体のプロフィール	
(5) 参加団体のプロフィール	
2. 協働研究の概要	6
(1) 協働研究内容に関する簡単な説明	
(2) 想定する結果	
(3) 仮説に対する想定結論	
3. 対話型鑑賞デモンストレーション	6
(1) 対話型鑑賞体験会（三鷹ネットワーク大学にて）1回目	
(2) 対話型鑑賞体験会（市民参加でまちづくり協議会マチコエにて）2回目	
(3) 対話型鑑賞体験会（武蔵野スイングホールにて）3回目	
4. 「身近なアートコミュニケーター」100人養成事業	9
(1) スケジュール、カリキュラム、教材について	
(2) 講義トピック	
・アートカードでアイスブレイクを効果的におこなう	
・選択作品のディスクリプション	
・SAV (Social Art View) と VTS (Visual Thinking Strategie) の 継続比較研究	
(3) 受講者ふりかえりコメント抜粋	
(4) 参考文献	
5. アート&ヘルスツーリズムとアートカード創り	20
(1) 取組の目的	
(2) 全体像	

- (3) 取組のポイント
- (4) 取組の成果
- (5) 次年度以降の取組について

6. 事業成果	28
(1) 結果	
(2) 結論	
7. 結果と考察	28
8. 結語	29
9. 今後の計画	29
10. 謝辞	30

1. 本事業の概要

(1). 目的

3年間のまちづくり研究（学びと実践）から、「アートコミュニケーション」は同じものを観る体験を共にし、そして「人」と対話して帰る。また「土の人（＝地元の人）」と「風の人（＝よそもの、外部の人）」とのつながりを創る「まちづくりコミュニケーション」でもある。

この事業は三鷹・武蔵野の芸術文化・観光資源と人と人をつなげる、関連サービスの担い手としての「アート・コミュニケーター」を創り、地域振興や健康に貢献するまちづくりのコミュニティ創造事業である。

三鷹市では全国的に広がっている対話型による絵画鑑賞が「教育分野」では学習指導要領でも指導されたが、小中学生の学習の中で展開されていない。また「福祉分野」では薬の処方ではなく市民活動などの地域での人のつながりを処方する「社会的処方」制度（保険の適用をうけられることを導入したイギリスの事例）などから、日本でも軽度の認知症やうつ病の患者との対話による絵画鑑賞などの芸術・文化的処方でその効果（エビデンス収集）を検証する研究が数年前からスタートしている。

本事業はこうした活動の初手である広報活動（デモンストレーションなど）をおこなう。そして核となる身近なアート・コミュニケーター人材の育成をおこなう。関係者を交えたコミュニティで更なるワークショップ、セミナーを企画・実施していくものである。

(2). 研究の背景

2020年：まちづくり研究所にて提案論文を作成：新様式ソーシャルアートビューがひらく新たな地域活動スタイル研究_視覚障害者でアートナビゲータのN氏（写真1の中央）やとびらプロジェクト（東京藝術大学と東京都美術館）のリーダーI氏のヒアリングを軸に以前より開催してきたソーシャルアートビュー（SAV：Social Art View：目の不自由な方と共に心の目でみる対話型絵画鑑賞）とビジュアルシンキングストラテジー（VTS：Visual Thinking Strategies：視覚的思考方略、通称：対話による絵画鑑賞）を比較考察し、スタイルとしてのアートコミュニケーションがまちづくりコミュニケーションに有意義なことを、三鷹まちづくり研究所で研究し論文を提出。2021年に提案論文として採択。

[_https://www.mitaka-univ.org/machiken/kenkyuuin/pdf/06.pdf](https://www.mitaka-univ.org/machiken/kenkyuuin/pdf/06.pdf)

2021年：「民学産公」協働研究事業 第1回：新様式アートコミュニケーション活動をコロナ禍における非接触、非リアル対面環境下でも市民活動のコミュニケーションに役立つワークショップやツールに仕上げていく研究事業_2022年に「民学産公」協働研究事業として報告した。

[_https://www.mitaka-univ.org/kenkyu/PDF/04_hayasi_ken.pdf](https://www.mitaka-univ.org/kenkyu/PDF/04_hayasi_ken.pdf)

2022 年：実践・展開：NPO クリエイティブライフデザイン、三鷹市市民参加でまちづくり協議会～マチコエ～芸術グループ、三鷹・武蔵野の芸術文化を愛する市民グループ、Next Door Team（隣組）10 と共同して三鷹・武蔵野市民とアートワークショップ DAY1, DAY2 を開催（写真 2、3 参照）。「ソーシャルアートビュー」や「アート&ヘルスツーリズム」の活動をおこなった。



写真 1



写真 2



写真 3

(3). 協働研究事業の期間

2023 年 6 月 15 日 ～ 2024 年 2 月 16 日

(4) 申請団体のプロフィール

まちづくり研究員 1 期生 林賢。

アートを介して対話し共に観る、新しい絵画鑑賞スタイルとして 1980 年代に、ニューヨーク近代美術館（Museum of Modern Art）で開発された VTS（Visual Thinking Strategies：視覚的思考方略、一般には対話型鑑賞とよばれる）と SAV（Social Art View：目の不自由な方と共に心の目でみる対話型絵画鑑賞、このサービスの商標登録 第 6225167 号／2017 年に登録済）を組み合わせ研究開発を継続。各種ワークショップを企画実施している。

「障害のある方々」や「高齢者」と「一般市民」、「学生、児童、幼児」と多世代交流していくことで「社会・地域」に貢献できることを理想に掲げてアートコミュニケーション活動を展開中である。

(5) 参加団体のプロフィール

以下のメンバー（敬称略、順不同）で研究体制を組み、協働研究実施した。

（研究代表）林 賢（NPO クリエイティブライフデザイン 代表理事）

（研究協力）NextDoorTeam10（地域福祉コーディネータ 10 期生数名）

（研究協力）市民参加でまちづくり協議会「マチコエ」

心ゆたかなまちづくり部会 芸術グループ 有志メンバー

（研究協力）三鷹・武蔵野の芸術・文化を愛する市民グループ

(研究協力) 吉田三恵子 (TANGENT-X 株式会社代表)

(研究協力) とびらプロジェクト (東京藝術大学と東京都美術館のおこなう
ソーシャルアートプロジェクト) 有志

2. 協働研究の概要

(1) 内容に関する簡単な説明

- ・ VTS や SAV のデモンストレーション

過去蓄積してきた知見、研究成果で三鷹市内の学習指導に携わる関係者（教員を含む）や地域のオピニオンリーダーの皆様に、対話による絵画鑑賞が正解のない問いを考えるきっかけになることやアクティブラーニングを考える、きっかけになることを体験してもらう。

- ・「身近なアートコミュニケータ 100 人養成事業」活動組織の一角を担って頂く方々を対象に共にアートコミュニケータカリキュラム（コンテンツ）の研究と作成をしていく。
- ・まちづくり活動は皆でやり、とても楽しく有意義であることを実体験する「三鷹アートカード制作ワークショップ 2023 版」を実施し、アートを身近に感じる未来の三鷹、それにかかわる未来の自身の姿を実感してもらう。

(2) 想定する結果

得られる発見や意義（価値）について：アートコミュニケーションから課題解決イメージの創出、主体となる市民リーダー（アートコミュニケータ）の育成一部のプロセスが標準化される

(3) 仮説に対する想定結論

仮説に対する結論、予想される結果とその意義：ビジュアルシンキングで、イメージを共有しながら、（市民のクリエイティブパワーで）新しい課題解決テーマをカタチにしていく まちづくり市民リーダーの育成一部のプロセスが形式知となる。

3. 対話型鑑賞デモンストレーション

市民への広報、共感活動として期初に 3 回の対話による絵画鑑賞体験会をおこなった。合計 102 名の市民にアクセス。

(1) 対話型鑑賞体験会（三鷹ネットワーク大学にて）1 回目

2023 年 5 月 17 日に第 6 期まち活塾の開校式で塾生が参加。歓迎と懇親の意味をこめ、地域活動の原体験や価値観の転換 になった出来事などをお話しさせて頂き、ソーシャルアートビュースタイルの「対話による絵画鑑賞（デモンストレーション）」を実施した。（写真 4）25 名が参加。



(2) 対話型鑑賞体験会（マチコエ会議室にて）2回目

2023年6月6日に三鷹市の福祉や教育関係者にお声掛けをし、業務が終わった19時にスタート。対話型画鑑賞会の体験会「デモンストラレーション」を実施した。9名が参加（写真5、図1を参照）。

[illegible]

図 1 : 案内のチラシ

(3) 対話型鑑賞体験会（武蔵野スイングホールにて）3 回目

2023 年 6 月 11 日に社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会からお声掛けをいただき、「お父さんおかえりなさいパーティ」に参加。登壇者 3 名による鼎談スタイルで地域活動の報告や簡単な絵画鑑賞体験会そして活動への参加要請をおこなった。私はソーシャルアートビュー活動をスライドで紹介し、コミュニティへのお誘いをしました。（写真 5）68 名が参加。



写真 5：武蔵野スイングホール

4. 地域の身近なアート・コミュニケーター100 人養成事業

身近なアート・コミュニケーター100 人養成事業の参加者を募集するため「対話型鑑賞とアートワークショップの連続講座」という名称の企画を立案。講座のあとに応用編としての「アート&ヘルスツーリズム@大沢の里」も同時に案内した。2つの企画の狙いを下記の図のような一文にして関係者に周知をした。

案内チラシについては狙いの事業の意味を理解して参加してほしかったので、情報量が多すぎて、かえって参加者を減らした可能性があったと反省している。しかし「身近なアートコミュニケーター」になってみようと思っていただける方々へアプローチするためのモノだったので今年度は良しとする。次年度以降は WEB サイトと併用して情報の分散配置、適時露出を考えていく。ワークショップというタイトルが良かったのかどうか評価は割れた。次年度は再考する。

開催日時と内容							
第1回 10/8 (日) 13:30~16:30	第2回 10/21((土) 13:30~16:30	第3回 10/29 (日) 13:30~16:30	第4回 11/4 (土) 13:30~16:30	第5回 11/12 (日) 13:30~16:30	第6回 11/19 (日) 10:30~16:00	第7回 12/3 (日) 09:30~16:00	
必須 参加回 アートカードゲームで 対話型鑑賞を楽しむ 参加者自己紹介	対話型鑑賞を学んで楽しむグループ学習 3回中1回出席は必須 ガイダンス VTS&SAVをアートポスターにて行う アートナビゲータ、オブザーバー、参加者編成			必須 参加回 参加者に各自企業の ワークショップ 参加者 まとめ	三鷹ネット大にて講義 とアートカード制作 対話から学ぶ 一枚写真と アートカード写真の撮り	大沢の里 アート&ヘルスツーリズム 大沢の里近辺で 撮影、対話鑑賞と ふりかえり	
基礎編 「民学産公」協働研究事業 第1、5回は必須回。3回以上参加して下さい。有料 基礎編 新規 募集							応用編「まちづくり補助金」事業 無料 応用編 新規 募集

図 3

カリキュラム、教材開発に関して、当初計画ではオピニオンリーダーとなっている著者をお招きして、その後グループ学習のなかでまとめていく計画だった。著者にアクセスできないこと多かったのと、唯一アクセスできた方の場合、謝礼金が補助金予算の全てを上回る金額だったので当初計画を諦めた。

代替えの実行案はグループ学習のなかで読書感想会を開き、ポイントを押さえ、メンバー内の知恵の交換で著書を読み解き、重要な個所をチャートやスライドにし教材化した（学習環境はDiscordを利用 図4参照）。

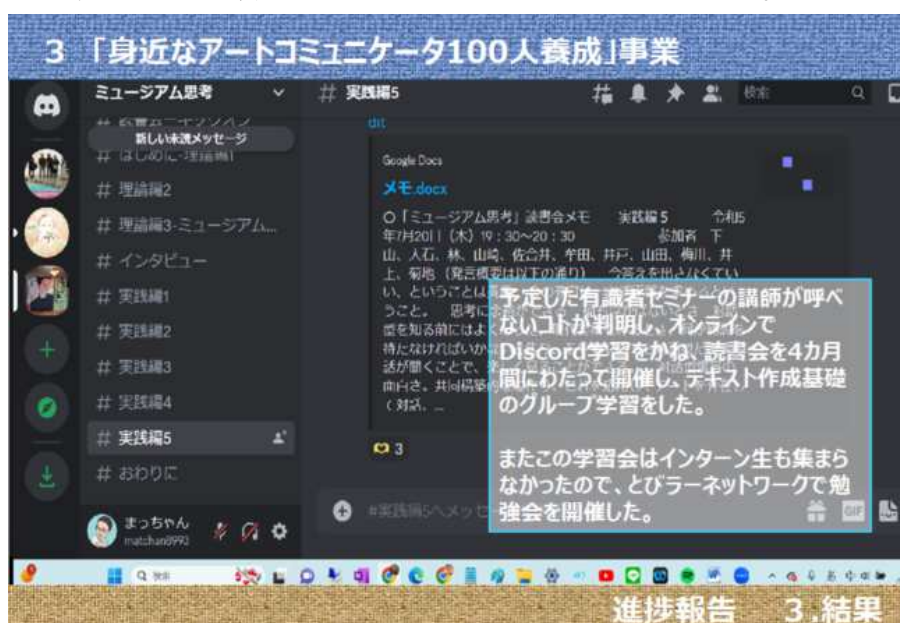


図 4

(2) 講義トピック

・アートカードでアイスブレイクを効果的にこなう

講座第 1 回目は連続講座の主旨説明を図 5、6 のように説明し、その後アイスブレイクの時間にアートカードを使い、初対面の方々ばかりだったので、時間を多めにとって相互理解とアートカードワークに興味をもってもらった。

本講座の主旨	本日の流れ
本講座は、教育・福祉・ビジネスの各分野で注目されている、「対話鑑賞」により、 “芸術を介して、多様なコミュニケーションを育む” まち三鷹にするために、 「対話型絵画鑑賞」の魅力を知り、参加者同士で学び、 「対話」を自らのコミュニティづくりにどのように生かすかを考える目的で開講します。	自らのコミュニティづくりにどのように生かすか 13:30 ～全体俯瞰と自己紹介⁴⁵ 「アートカード」の魅力を知る 14:15 ～アートカード・ゲーム³⁰ 「対話型絵画鑑賞」の魅力を知る 14:45 ～ガイダンス¹⁵と VTS&SAV^{20 20 20} 自らのコミュニティづくりにどのように生かすか 16:00 ～ふりかえり³⁰

図 5

図 6

第 2 回目から 3 回目、4 回目は図 7 から図 9 のような内容で講座を進行させた。

全ての回でアートカードのゲーム内容を変えて、アートカードの使い方を工夫することを楽しみながら体験してもらった（応用編につなげるため）。

第2回目講座の内容	第3回目講座の内容	第4回目講座の内容
13:30 ～全体俯瞰と自己紹介 14:00 ～ガイダンスと作品の言語化による描写 15:00 ～ガイダンスとアートナビゲータ体験 16:00 ～ふりかえり	13:30 ～全体俯瞰とアートカードで自己表現 14:00 ～ガイダンスと作品を言葉で描写する 15:00 ～ガイダンスとアートナビゲータ体験 16:00 ～ふりかえり	13:30 ～全体俯瞰と11月12日（日）5回目準備 14:00 ～ガイダンス：美術館に行くことについて 15:00 ～ガイダンス：アートナビゲータとしての対話力 16:00 ～ふりかえり

図 7

図 8

図 9

基礎編は 5 回の講座の中で対話による絵画鑑賞が様々な「対話」をリードしていく入口となることを体験してもらい、応用編でのアートカード作成（写真撮影）ワークショップに参加したいと思ってもらえるように構造を考えた。

全 5 回のアートカードの利用方法として、様々なスタイル試してみた。参加者は後半になると趣旨を理解してリラックスする、楽しむことを率先して行うようになった（図 10 から図 12 参照）。

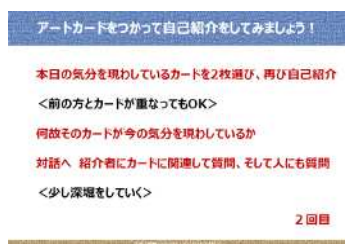


図 10

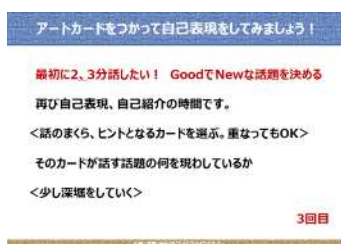


図 11

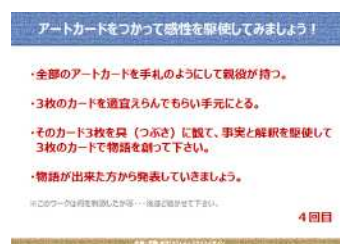


図 12

・選択した作品のディスクリプション

鑑賞する作品を事前に具にみていき、丁寧に言葉で描写していく。言葉を整理していくことで漠然とみていた時には気がつかなかったことが見えてくる。

3 作品で演習をおこなった。全員で一つの作品をみて言語化していく。一つ一つの言葉を付箋に書き、客観視（事実）した言葉か、主観視（解釈）した言葉なのかを整理していく演習である（図 13 から図 17、写真 6 から 9 を参照）。



写真 6

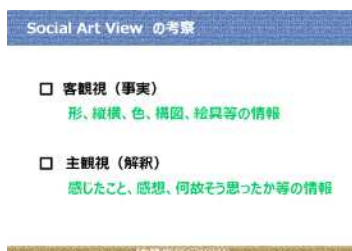


図 13



写真 7



図 14 高松明日香氏 作品「真昼の幻影」より



図 15 作品「真昼の幻影」より事前のディスクリプション



写真 8

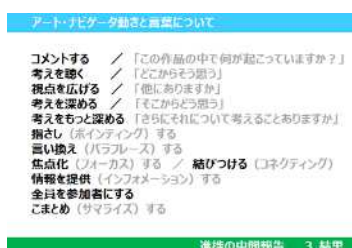


図 17



写真 9

・ SAV (Social Art View : 目の不自由な方と共に心の目でみる対話型絵画鑑) と VTS (Visual Thinking Strategies : 視覚的思考方略 (対話による絵画鑑賞) の継続・比較研究

まちづくり研究の提案論文 (図 18 参照) や「民学産公」協働研究事業 1 回目の研究報告で考察してきた SAV と VTS (図 19 参照) であるが、今回の「民学産公」協働研究事業 2 回目の研究でも参加者に伝える為に更なる分析をおこなった (図 20、図 21 参照)。



図 18 2021 年提案論文に掲載した図



図 19 2021 年民学産公協働研究 報告資料の抜粋

AI 時代のなかで検索しても出てこないような、正解の無い問いを考える力がつくとされる対話型絵画鑑賞（VTS）や SAV スタイル（VTS と SAV を行き来する）手法をとる際の問いの機能の違いを考えて図にした（図 20、図 21 参照）。

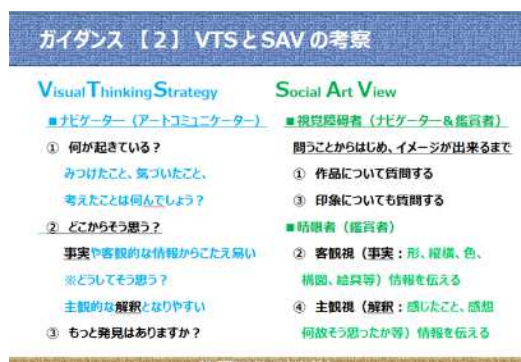


図 20

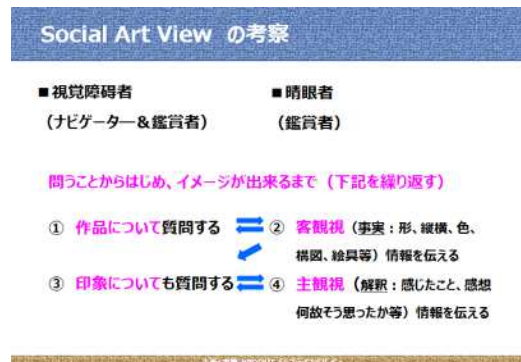


図 21

一般に質問は問うた人は答えを知っている人に質問して情報を引き出す引金としている。従来の学校教育における教師の発問は生徒に対して考えを引きだす引金になるもの。VTS においては答えを知っているアートナビゲーターが答えを知らない参加者に問いを投げかけて複雑な意図をもった作品などを共同で読み解いていく。

しかし SAV スタイル（VTS と SAV を行き来する）手法では答えを知らない視覚障がい者またはアイマスクをかけた視覚障がい者役を体験する者が答えの知らない参加者に問いを投げかけるので、共同構築的な対話を促していき、創造的な対話になっていくこととなる。

先に述べた VTS/SAV の問いと発問、質問の違いをまたまた（図 22 を参照）。

ガイドンス【2】 VTSとSAVの考察

	視覚障害者 問う・ナビゲーター	晴眼者 参加者	機能
質問	答えを知らない	答えを知っている	情報を引き出す 引金（質問）
学校教育における 発問	経験情報を持っている 知っている／知らない	答えを知らない	考えを引き出す 引金（生徒対象）
VTS/SAV的な 問い	答えを知らない	答えを知らない	創造的対話を 促す（全対象）

“顔のデザイン”43頁より、筆者変更

図 22

SAV 及び SAV スタイルでの問うことからはじめ、イメージが出来るまで繰り返すプロセスと視覚障がい者（またはアイマスクをかけ疑似体験する人）と健常者（晴眼者）の役割の違いを図にまとめた）。

ワークショップではアイマスクをかけ疑似体験した人はアイマスクを外して対話型鑑賞をした結果（正解／本物の作品）をみることが出来る。イメージした脳内イメージとのギャップが大きい人と近い人に分かれたりするが初体験の人は概ね感動または刺激をうける瞬間だ。

視覚障がい者は最後まで対話の後の正解はみることが出来ない。視覚障がい者を持ちながらアートナビゲーターをおこなっているNさんの発言によれば「僕の場合は最後まで正解はみえないが参加した皆さんが語彙力にこまりアタフタする感じなんかも対話のなかで面白い。そして新しい企画やアイデアを練るとき、SAV はとても刺激になる。」と話している（図 20 から図 22 参照）。

開発途上の時にはアイマスクをかけて視覚障がい者の方とともに対話型絵画鑑賞をすることに戸惑い、遠慮めいた感情があったがナビゲーター役をおこなうN氏に強く「問題はない。ただ同じ感覚をしたと思わないで欲しい。視覚障がい者も人それぞれに違うこと。本当の視覚障がい者にならないとわからない怖さなどがあることを意識してほしい。いかに不便かなど想像をしてもらうことは良いことだ。」とアイマスクをつけるワークショップに賛同をしてもらった。

(3) 受講者ふりかえりコメント抜粋

第1日目から第5日目までふりかえりの時間を定期的に設け、会場での意見の共有をした。そして第1日目と第3日目、第5日目にはアンケート形式でコメント記入を依頼した。

それぞれ「改善した方が良かったかと思ったこと（主催者、自分自身に対して）」、「わかったこと、気づいたこと」、「次に挑戦したいこと（VTS/ SAVに関して／参加者自身のこと）」をそれぞれまとめ掲載する。

・「わかったこと、気づいたこと」のトピック

コメントがネガティブ発言にみえるモノもあるが内容的にはポジティブである。わかったこと、気づいたことは、回をかさねるほどに意義あるコメントや発言が多く、気づきが多い（表1参照）。

・「改善した方が良かったかと思ったこと（主催者、自分自身に対して）」のトピック

改善した方が良かったかとおもったコメントは主催者コメントと御自身へのコメントというように説明した。主催者激励コメントが多くあったが今後の講座進行に注意すべき重要なコメントも多く、是正ポイントの参考にしていく。

「思い込みや、知識を一旦捨てることが重要だが、これが一番難しいと感じた」というコメントはVTS/ SAVの際の参加者コメントで数件あった。共同構築的な対話鑑賞では言葉のすべてを正解だと信じていくことも危ういと説明。意味を理解して頂けた様子である。また「3つの問いを投げかけるのに四苦八苦しした」などの声もあった（表2参照）。

・次に挑戦したいこと（VTS/ SAVに関して／参加者自身のこと）」のトピック

よりVTS/SAVを極めていきたいというコメントが多くあった。「自分に対して問いかけ、そして深堀して継続したい」「もっともっと実践の場に立ちたい」「三鷹市のアート情報の抽出、アーカイブが思う」等々のコメントがあった（表3参照）。

		ふりかえり時の質問「わかったこと、気づいたこと」 (主催者、参加者に対して) のコメント	コメントに対する所感	参加者自身の所感
第1日目	1	自分の目で見ているもの（色彩、形状、状況など視覚で捉えている事柄）を言葉にして表現すること、人に伝えることの難しさを実感しました。	—	感想
	2	アートカードの使いかた、対話型鑑賞で用いる作品の選定方法がわかりました。	—	感想
	3	絵はさらっとみただけでは全く気がついていない。観察力が磨かれそう。	—	期待コメント
	4	対話型アート鑑賞において主観と客観を意識する事で、理解を深められることができそう。	—	期待コメント
	5	絵を見ているようで、見ていないことに気づいた。私はきつと最初に作品を見た時、無意識に「考えること」を拒否していたのかもしれない。	無意識に「考えること」を拒否していたという表現が良い	発見
	6	絵を観てない人に絵の内容を伝えるは非常に難しいと感じました。対話型鑑賞に使用する作品はいろんな解釈が可能なモノの方が対話が続き、活発な対話ができると感じました。	講座内容に同感するコメント	同感
	7	VTTSスタイルで鑑賞してよかったと思います。私の場合、「何が起きているのか」の基本的な質問に対して、よくわからないままに、全体をとらえることなく、ほかのメンバーに自分の感じたことを遠慮せずに言えたことはよかったと思う。	—	前向きな感想
	8	私のイメージでは、（中略）、感情を抑制しているように感じられました。そこからごく短絡的に、抑圧された女性像を描いたのではないかと感じてしまいました。私自身が「女性イコール抑圧された存在」という固定観念にいかにとらわれているか、よくわかりました。この落差にショックを受けました。	固定観念にとらわれている鑑賞スタイルに関しての気づき	気づき
第3日目	1	講座内の「作品選びのポイント」にあった項目は、とても重要だと思った（ゴッホを鑑賞しているとき）。気づきとしては、まず絵をしっかりと見ていなかったこと。作品鑑賞は、ひまわりのひとつひとつの印象から話が膨らみ、とても「多義性」があったこと。また人それぞれの話を聞いていると、更に注意深く観察していき「興味を刺激された」ことを体験しました。作品選びは、この空気感や流れをつくる（仕掛ける？）重要な選択なのだと理解しました。	—	気づき
	2	絵を見て印象に残ることは、人さまざまだと改めて思いました。	—	気づき
	3	地下鉄の男性の写真について、メンバーから予想もしていなかったような意見が飛び出し、これをきっかけに、さまざまなストーリーが生み出されました。たった1枚の写真でも、想像力を働かすことで、ここまで豊かなコミュニケーションができるとは、VTTS、SAVのもつ力を改めて感じました。	—	感動的な気づき
	4	盲目の人がどうやって色を理解しているか？色の箱に入れるイメージと聞き、これはAIが行うラベリングと同じであることに、気づきました。	AIラベリングの考え方に気づきを得た	視覚障害者の見え方への解釈
	5	今回もまた、私自身が固定観念にとらわれていることに気づかされました。この講座に参加させていただき、年をとって、自分が勝手にいろいろ刷り込まれていることに気づかされています。絵の構図からいえば、中心部に描かれているということは、その絵のストーリーの中で重要で良き人物であろうと思いついていましたが、必ずしもそうではないことに気づかされました。また絵のタイトルを知ると知らないでは大違いで、タイトルをつけるとしたらという問いは、私にはとても大事なことだと思いました。	講座の感想	フォローアップ 要
	6	絵画や芸術が大好きな方造詣が深い方が多く、知識が足元にも及ばないと感じています（知識を脱ぐ講座では無いので自分なりに楽しんでいます）。『言語化』という意味でこの講座のポテンシャルを感じます。その場に無いものを表現したり、食べ物の美味しさを表現したり。表現のトレーニングを受けているようでも面白いのです。	講座のポテンシャルを感じたというのは主催側として嬉しい感想	—
第5日目	1	全5回のワークショップを通じ、自分の頭の中を開放することが出来、モノの見方を大きく成長させることが出来た気がします。	—	講座評価_良
	2	3回の出席でしたがアートを通じたコミュニケーション手法として、生活、仕事の中で生かして行きたい。	—	講座評価_良
	3	思考の深堀りや感情や気持ち、目の前に見えているものの言語化能力の育成になることが体感できた。		講座評価_良
	4	同じ作品をみていても人それぞれ伝え方、言葉の違いがある点もとても興味深いです。		講座評価_良
	5	皆さんが自由にのびのびと発言できる場づくり、雰囲気づくりが心地よかったです。参加者の巻き込み方や時間配分など、周りでスムーズなことに感動しました。		講座評価_良
	6	対話を促す話し方は（自分が持っている絵画情報を伝えたくないので）案外むづかしいと思った。参加した皆さんの主観的な解釈、創造力が面白いと思った。		講座評価_良
	7	話を聞くだけでなく、実際にアートナビゲーターを体験してみても分かったことも多かった。他の人のやり方を見て学ぶことも多かった。	グループ学習の効果	—
	8	私の中で対話型鑑賞ファシリに対する柔軟な考え方が出来た（今までは堅い型にはまっていた）。	効果。他養成講座との違いコンセプトの違いを評価	—
	9	鑑賞者が楽しいかどうかの視点に欠けていたと気づいた。	効果。他養成講座との違いコンセプトの違いを評価	—
	10	作品の選定に手ごたえがありました。皆さんの個性あふれる作品選定でとても充実した時間でした。	効果。他養成講座との違いコンセプトの違いを評価	—
	11	自分の好みやジャンルが狭く、知識が足りないと感じました。	フォローアップ 要	—

表1

	ふりかえり時の質問「改善した方がよいかもと思ったこと」 (主催者、参加者に対して)のコメント	主催者、アートナビゲータに対して	参加者自身
第1日目	1 作品の背景に宗教的要素のある作品は、表現されているものが何なのか気づきにくいと感じました。「聖ドミニクス」に、木を啜っている犬が表現されていましたが、キリスト教信者で聖ドミニコのことを知ってる人なら、すぐに木が松明だとわかったはずですが...	宗教的絵画は背景にある歴史的事実を調べておかないと、アートナビゲータとしてはミスリードをしてしまうかもしれないと感じた	宗教的に造詣が深いという自負 フォローアップ 要
	2 早口なのが欠点ではありますが、ゆっくり話すよう努力します	—	自身の反省
	3 もっと多くの方に参加いただかないともったいないですね	—	講座の感想。評価_良
	4 他の参加者の事をもう少し知る時間があるとより良いと思いました。	—	講座の感想。評価_良
	5 今後は、自己紹介は一言でよいと感じました。自己紹介ではなく対話型鑑賞の学びの時間が増えればと感じました	アートカードの機能や魅力を知るための繰り返しだということを明確に伝えることが必要だ	講座の感想。4番の方とは真逆
	6 Aさんと、Nさんは、しっかりとした声でお話ししてくれますが、他の方は私には聞き取りがしにくいです。はっきり明瞭に会話するように講師からも伝えて下さい。	アートコミュニケーターとして会話スピードや声量に対する配慮が足りなかった	—
	7 いろいろな絵画展を訪れ、じっくり絵画と向き合いながら鑑賞する経験を重ねていながら洋の東西を問わず、基本的な美術史を勉強していきたいと思っています。	—	1回目の講座を終えた段階の感想
第3日目	1 人の話を聞いて、それを繋げたり流れをつくる役割は、繰り返しの練習が必要だなと思いました。そのため、今からできることとして「人の話をしっかりきく」姿勢をもちたいなと思いました。その姿勢を意識する習慣を身につけたい。	アートコミュニケーターとしてファシリテーターの役割をしっかりと感じてもらった	—
	2 オランダの風俗画だと思うようなことを言いましたが、間違っていました。結果的には絵の感じは伝わったようでしたが、曖昧な情報は伝えられない方がよいと思いました。	ルールとして前言を翻しても対話型絵画鑑賞では問題がないことを伝えていたので良い反省だ	—
	3 アートコミュニケーターの役割を、緊張しながらも担当させていただきました。ゴッホのひまわりについて、参加者の意見を引き出す役でしたが、自分の知識の中で進めたいくなってしまい、絵に集中出来ていなかったかもしれません。思い込みや、知識を一旦捨てる事が大切ですが、これが一番難しいとも感じました。	—	講座での体験をとおして得た貴重な反省
	4 話を聞いてまとめることとか、ファシリテーターなどが、もともととても不得手ですので（学生相手ですと、楽だったのですが）この点を少しでも改善できればと思っています。	—	講座にたいする抱負
	5 講座について改善というのは特に感じません	—	講座の感想。評価_良
第5日目	1 自分自身にたいしてまだまだ先入観が先行してしまうと思うので改善したい。	—	講座にたいする抱負
	2 実際に皆さんと美術館でアートコミュニケーターの実践をしたい。	—	—
	3 作品に思入れのある参加者、作品情報をもっている参加者への対応方法を事前に教えて欲しいと思いました。	ファシリテーターとしての作法。役割など フォローアップ 要	—
	4 大人どうしの対話型絵画鑑賞の場合は、作品情報ある程度渡した方が充実するケースもあると聞きましたが、どのようにバランスをとるか？もっと体験をしないといけないと思った。	—	講座にたいする抱負
	5 自分の選択した作品の事前研究、情報まとめをもっとすべきだった	—	講座での体験をとおして得た貴重な反省
	6 作品情報を持っている参加者はどのように対応するのがベストなのか事前に伝えて欲しい	ファシリテーターとしての作法。役割など フォローアップ 要	—
	7 時間内にまとめることへの配慮が足りなかった。	—	講座での体験をとおして得た貴重な反省
	8 事前研究が足りなかった。	—	講座での体験をとおして得た貴重な反省
	9 3つの問いを投げかけるのに四苦八苦した。	—	講座での体験をとおして得た貴重な反省

表 2

	ふりかえり時の質問「次に挑戦したいこと」 (内容VTS/ SAVに関して、参加者自身の次の課題、目標) のコメント	VTS/SAVに関して	自身の行動に関して
第1日目	1 絵の説明の表現が他の人にわかりにくいのではないかと感じています。的確で明快な表現方法を探ってみたいです。	—	課題の言語化
	2 アート・コミュニケーター技術を学んでまいります。	—	抱負
	3 海外、国内に行った時の絵葉書があるので、これに対話型鑑賞やってみたい。超有名絵画シリーズ。	—	課題の言語化
	4 対話を引き出すファシリテーションを極めたいです。	—	抱負
	5 対話型鑑賞は、人やモノとのコミュニケーションを促進するものと考えています。(本講座を学び、そう感じました) 本講座の受講生の方々と対話を繰り返すことで、色々な発見があるかと思うので、今後がとても楽しみです。	—	講座への期待
	6 もっと対話が弾むようなファシリテーションができるようになりたい。	—	抱負
	7 VTSとSAVスタイルの訓練を重ねて、いつの日か、目の不自由な方と対話しながら、絵画鑑賞できるようになりたいと思っています。	—	前向きな抱負
第3日目	1 どうしたら絵の内容を正確に伝えることができるのかを良く考えて 発言したいと思います。	—	前向きな姿勢
	2 自身のWebサイトで会話形式の授業コンテンツを公開していますが、ここでもアートコミュニケーターの手法が使えるのではないかと思います。積極的に活用したいと思っています。	前向きな姿勢	授業にも応用したい
	3 事前研究の方法をもっと学びたい。客観・主観を分けたり、グルーピングしたり。	前向きな姿勢	—
	4 この講座に参加していること自体が、私にとってはチャレンジでもありますので、がんばって、ほかのメンバーの方たちの足でまといにならないように何とかついていきたいと思っています。	前向きな姿勢	—
	5 セカンドキャリアを模索中の身ですのでいろいろと興味はありますが方向が定まっていません。この講座から色々ヒントを得たいと思っています。	—	抱負
第5日目	1 自分自身にたいして問いかけ、そして深堀する手法はもっと使っていきます。	—	宣言
	2 経験や知識のインプットまだまだ足りないと思った。	—	前向きな反省
	3 自身のアートナビゲーターのときに参加者全員への気配りが大切だと思った。	—	前向きな反省
	4 新しいアートワークショップの企画がひらめきました。	—	アイデア
	5 三鷹市のアート情報の抽出、アーカイブがいろいろあると思う。	提案	—
	6 子供たちとのアートワークショップをやっていきます。	—	宣言
	7 もっともっと実践の場に立ちたい。	—	宣言
	8 参考図書を読みます。	—	宣言
	9 多くの人が興味を持ち、面白がってくれる作品を選択しアートナビゲーションしたい	—	抱負

表3

5. アート&ヘルスツーリズムとアートカード創り

本章は「まちづくり補助金」を活用した事業であるが、両方の事業のリーダーが同一人物であり、「民学産公」協働研究事業を利用した「人材育成カリキュラムの研究」事業を基礎編。「まちづくり補助金」を利用した「アート&ヘルスツーリズムとアートカード創り」事業を応用編とした連続講座なので、その報告書を掲載する。

昨年度開発した“アート&ヘルスツーリズム”の取組を更にすすめるアートカードワークショップ制作とアートヘルスツーリズムのツアーを実施。市民どうしが共創する新プランで、担い手を継続的に増やしていくことを目的とした。

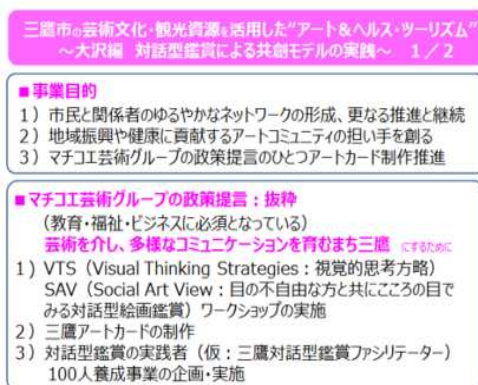


図 23

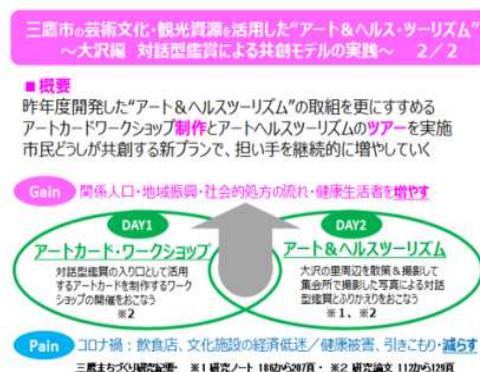


図 24

地域の身近なアート・コミュニケーター100人養成事業を基礎編といちづけ、このワークショップ「アート&ヘルスツーリズムとアートカード創り」を応用編として連携して企画、実施をした。新規に参加される方には基礎編に参加していなくてもアクティビティに追いつくことが出来る内容とした。タイトルは三鷹市観光・文化芸術資源を活用したアート&ヘルスツーリズム～大沢編 対話型鑑賞による共創モデルの実践～として案内チラシも応用編として連動性を持たせたデザインとした（図 23、24、25 を参照）



(1) 取組の目的

＜狙い：キャッチフレーズ＞

「三鷹」をめざして「人」がくる

同じものを観る体験を共にする

そして「人」と対話して帰る。

「三鷹」と「人」、「アート」と「人」、「人」と「人」

芸術文化・観光資源の資源をつなげ

地域振興や健康に貢献するコミュニティを創る

※1 政策提言の抜粋（教育・福祉・ビジネスに必須となっている）

“芸術を介し、多様なコミュニケーションを育む” まち三鷹にするために以下の3つの政策提言を提出済み。

- ① VTS（Visual Thinking Strategies：視覚的思考方略、対話型絵画鑑賞）や
SAV（Social Art View：目の不自由な方と共に心の目でみる対話型絵画鑑賞）
ワークショップの実施
- ② 三鷹アートカードの制作
- ③ 対話型鑑賞の実践者（仮）三鷹アートコミュニケーター100人養成事業の企画・実施

(2) 全体像

講義と撮影ツアーによるワークショップで市民協働のアイデアを盛り込み新プランを開発する。そして主催者と市民のアクションサイクルを構築、アートコミュニティの形成を行う。

※大沢の里のイベントの記録動画で DAY 2 の全体像を報告します。

下記の URL または右の QR コードからご覧ください。

<https://youtu.be/j8kRiD6820M>



DAY1

対話型鑑賞、アートカードワークショップ、アート&ヘルスツーリズム（大沢編）コース計画 アートとアートカードの境目にあるコトなどの問いで対話した。

■実施日時：2023 年 11 月 19 日(日)：10 時半～16 時

三鷹ネット大学にて講義とワークショップ

参加者：10 名

DAY2

大沢の里近辺を歩き、アートカード用写真撮影。話型鑑賞とふりかえりを大沢の里集会所にて行った。

■実施日時：2023 年 12 月 3 日(日) 9 時半～16 時半

三鷹駅南口集合～集会所

参加者：8 名

(3) 取組のポイント

- ・ 従来活動・知見をベースにバージョンアップし 計画策定
2022 年に実施した「ソーシャルアートビュー×ヘルスツーリズム」の革新的な取組みや「マチコエ」芸術グループでのワークショップでの活動・知見をふまえて進める。
- ・ 昨年度の参加者の声を踏まえコース設計
「自ら裏側のツアー構築に携わってみたい」「三鷹駅周辺以外の地域を取り入れたい」「マチコエ芸術グループで提案した政策提言を具体的に実践にすすめていきたい」との声。
 - ・ 目的地である三鷹「大沢の里」への旅。
 - ・ 大沢の里での体験が探求心や冒険心を呼び覚ます。DAY 1 で初学者を前提に対話型鑑賞、アートカード、ヘルスツーリズム、大沢地区の紹介講義を事前に行った。
 - ・ スタッフ側で一方的にコースを選定するのではなく、参加者と協働で企画していった。DAY 2 では安全のためボランティア保険に加入。事前にコースの安全性、トイレの場所、集会所での投影会による対話型鑑賞会ができるかなど、入念に下見を行い準備した。

<共有の体験>

- ・ 初めての参加者がコミュニケーションを取りやすいように対話を重視した。鑑賞することの意味は歴史的背景をよく知っていることや作家の意図をいいあてることではなく、自分の視点でモノを良くみて思考を巡らせることが大切だということを重視、VTS や SAV のワークショップで体感してもらった。

- ・1日の歩数8000歩を目標とし、アプリで測定しクリアした。
- ・「同じものを観る体験を共にする」ことによってつながりを感じる。アール・ブリュットみたか2023から昨年の作品をお借りし、講義の中で紹介

2023年の三鷹市美術ギャラリーの展覧会についても告知。



図 26 アール・ブリュットみたか 2023 オータム

～まち×ひと



図 27 第 28 回三鷹まちづくりフォトコンテスト

素敵な三鷹、みい〜つけた！～株式会社 まちづくり三鷹 (mitaka.ne.jp)

＜対話と交流＞

- ・他者との交流やコミュニケーションを通じて、新しいアイデアや視点を得るための機会を得た。
- ・隣の人とおしゃべりができる「にこにこペース」で無理のない速度でウォーキング出来た。

＜アートと人々の関係＞

- ・「アート」と「人」の組み合わせ。芸術や文化を通じて感動やインスピレーションを共有し、人々を結びつける力が強くなる。
- ・DAY1 でアートとアートで無いモノの境目は何か？、一般的な写真とアートカード足りうる写真の違いは何か？などを対話型絵画鑑賞講義とグループ学習の中で“答えのない問い”ではあるが共通の見解を創っていき、DAY2 での撮影ツアーを有意義なモノにしていった。

＜大切なチャンス逃さない＞

- ・各種の関係（三鷹と人、アートと人、人と人）において「大切なチャンス」を逃さない。これは人との繋がりや経験を大切にし、進んで新しいものを受け入れる態度につながっていった。
- ・DAY2 の大沢地区で撮影した写真を三鷹まちづくりフォトコンテストへ応募。三鷹市の他の関連事業のご紹介の場となった。

<https://www.mitaka.ne.jp/photocon/about/yoko.html>

- ・前提知識として必要な Visual Thinking Strategies (VTS：視覚的思考方略＝対話による絵画鑑賞) や Social Art View (SAV：目の不自由な方と共に心の目でみる対話型絵画鑑賞) のこと、そしてアートカードの効能や遊び方を理解していただくため、民学産公協働研究事業の三鷹アートコミュニケーター100人養成事業との連動を企画し、応用編としての企画をこころがけた。
- ・DAY2の当日に情報を入手していなかった大沢の里を通過する自転車ロードレースが開催されていてバス運行がストップされていた。スタッフはタクシー移動することを余儀なくされたが、アートカード写真素材として記録した

(4) 取組の成果

三鷹市の観光資源を学び、どのようなアートカードが三鷹市オリジナルアートカードとしてふさわしいか、対話型鑑賞・ヘルスツーリズムワークショップと大沢地区での実践を通して自ら体験するアート&ヘルスツーリズムに関心のある担い手候補を育成した。

・ DAY 1 アンケートより抜粋

- ・ DAY 2 には参加できないが、大沢地区にはいったことがないので作成したコースを自主的に行ってみたい。
- ・ どのようなカードがアートカードとしてふさわしいのか、難しかった。
- ・ ヘルスツーリズムの考え方を初めて知ることが出来た。運動・栄養・休養の基準など。

・ DAY 2 振り返りコメントより抜粋

- ・ 三鷹にキウイの即売所もあり、これほど自然がたくさんあったことに感心した。
- ・ それほど疲れず、天気にも恵まれ、隣の人と話をできる、にこにこペースの速度で歩き会話も楽しめた。
- ・ 人によって写真の撮り方や視点が違う。その後ふりかえりで対話型鑑賞を行う中で、なにか物語が生まれそうな写真の方がアートカードに向くのではないかと感じた。
- ・ ボランティアガイドの方が水車の詳細の解説をしていただき、歴史がよくわかった。
- ・ 運動目標 8000 歩、三鷹観光資源を通したアート&ヘルスツーリズムの要素をクリアした大沢地区のモデルコースの一例を参加者協働で作成し、アートカード撮影、対話型鑑賞の実践を行った。

(5) 次年度以降の取組について

- ・二回目の開催のため、三鷹の観光地として「推し」の大沢地区を選定してコースプランニングを考えてもらった。自然豊かなコースで、参加者からは「楽しかった」と好評であった。
- ・実施時期が冬の繁忙期に重なったため、時期と告知方法は再考の必要がある。
- ・三鷹地域探求や美術館での開催にあわせて、今後は実施検討していきたい。
- ・食事場所および休憩場所が少ない印象を受けた。今後は提携、コミットも考慮していきたい。
- ・コースプランニング、アートカード写真撮影を通し、参加者による共創での取り組み実践することが出来た。
- ・今回は大沢地区での三鷹の観光資源を利用した対話型鑑賞およびアートカード撮影を行ったが、同じようなモデルで、未実施の地域に展開が可能である。
- ・三鷹市での取り組み、撮影した動画、写真などは、対話型鑑賞のワークショップとして他地域でも紹介し、広報に役立てることが出来る。



写真 10 野川公園のイチョウ



写真 11 大沢住宅集會場で写真による対話型鑑賞と振り返り



写真 12 野川で彫刻による対話型鑑賞の実施



写真 13 大沢の里古民家内部

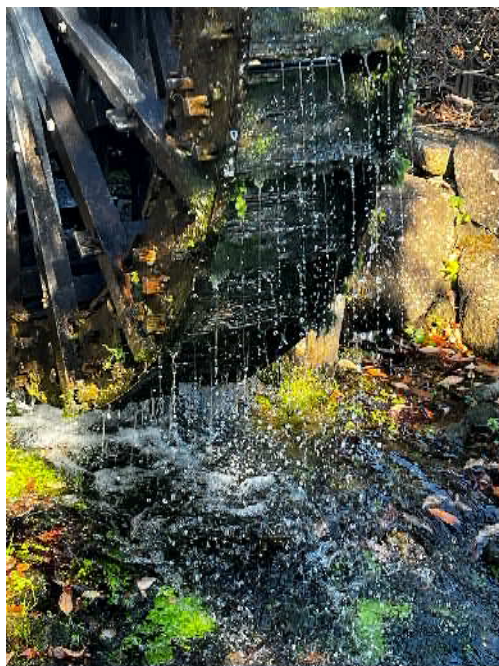


写真 14 大沢の里の水車



写真 15 三鷹から調布飛行場をのぞむ (アートカード写真候補 : S さん撮影)

参加者全員が選んだアートカード写真として相応しいと推薦した写真の理由（もともと事前対話のなかでのキーワード）。

- ・風景と人間が映っている（色々な物語が想像しやすい）
- ・動きが読み取れる　・明るい　・美しいこと
- ・バランスがいいこと・楽しい　・どこかで見た記憶のある雰囲気等々であった（写真 10 から 15）。

6. 事業成果

(1) 結果

アートコミュニケーションを中心とする関連ワークショップ展開により、主体となる「身近なアート・コミュニケーター」育成プロセスの一部が教材化、言語化され標準化された。

(2) 結論

三鷹まちづくり総合研究所_まちづく研究員_1期生でのリサーチクエストを継続、連続、深堀していくことで、三鷹ネットワーク大学「民学産公」協働研究事業 1 回目。そして三鷹市市民参加でまちづくり協議会～Machikoe（マチコエ）～芸術グループとして活動を連携させて取り組むことが出来た。

本事業においては「民学産公」協働研究事業の取組であり、まちづくり協議会 2 年度目の事業と連携させることで基礎編の座学、グループ学習と応用編のフィールドワークの実証実験が出来た。市民活動、地域活動が三鷹市の～芸術・文化を介し、多様なコミュニケーションを育むまちに向けて～確かな一歩を踏み出すことが出来た。

7. 結果と考察

三鷹市市民参加でまちづくり協議会～Machikoe（マチコエ）～芸術グループとして、三鷹市に提言した 3 提言を連動させ企画。成果をあげた。

- ① VTS や SAV ワークショップの実施は 102 名の市民にアクセスし、体験会を開催、広報することが出来た。
- ② 対話型鑑賞の実践者（仮）三鷹アートコミュニケーター100人養成事業の企画・実施（2028年までの目標）に対しては10人の市民参加を得て積極的に活動するアートコミュニティの一角を形成できた。

- 下記は「まちづくり補助金」事業だが、本事業と連動する企画として実施。
- ③ 三鷹アートカード 2023 年度版制作の実施はリアルなカード作成までは到達しなかったが写真データとして「アートカード」の定義を対話しロケーションハンティングを実施することで有意義な「アート&ヘルスツーリズム」のワークショップ第二弾となった。

8. 結語

視覚から思考することで対話による絵画鑑賞や野外彫刻による対話鑑賞、歴史的建造物を観光して対話することなど、地域の文化芸術・観光資源で、身近なアートコミュニケーションが入り口となり、市民活動でのコミュニティが形成されることが実証できた。

今年度は 10 名の受講生であったが、ここを拠点に「身近なアートコミュニケーター」100 人養成講座を継続開催する。また仲間とコンテンツをブラッシュアップさせ、シニアを対象とする「社会的処方」、「文化的処方」の活動や幼児、児童、生徒、学生までを対象とする「よりよい学びの場づくり」に貢献する。

9. 今後の計画

三鷹市、武蔵野市、調布市、小金井市などの文化芸術・観光資源を利用して、更なる活動の拡幅をおこなう。

2024 年度には、春期、秋期の「身近なアートコミュニケーター養成」講座（連続 5 回×2 セット、目標 20 名、累計 30 名／目標 100 人）を計画する。

【参考文献】

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 鈴木有紀 | 2019 年『教えない授業』
英治出版 |
| 末永幸歩 | 2020 年『13 歳からのアート思考』
ダイヤモンド社 |
| 稲庭彩和子 | 2022 年『こどもと大人のためのミュージアム思考』
左右社 |
| 安斎勇樹・塩瀬孝之 | 2020 年『問いのデザイン』
学芸出版社 |
| 西 智弘 | 2020 年『社会的処方』 |

学芸出版社
アメリア・アレナス 1998 年『なぜ、これがアートなの』
淡交社
フィリップ・ヤノウィン 2015 年『学力おのぼす美術鑑賞』
淡交社

10. 謝辞

「民学産公」協働研究事業に協力いただいた皆様に多大なご支援と協力を頂き、誠にありがとうございました。深く感謝を申し上げます。

- ・地域福祉コーディネーター有志、
- ・市民参加でまちづくり協議会「マチコエ」事務局_ご担当者
- ・同上 心ゆたかなまちづくり部会 芸術グループ有志
- ・三鷹・武蔵野の芸術・文化を愛する市民グループ
- ・TangentX 社ご担当者
- ・とびらプロジェクト_アートコミュニケーター有志

プロフィール

林 賢

- ・定年後のサードキャリア勤務と並行して、金土日活動で NPO クリエイティブライフデザインを企画、運営している。
- ・問いつづけて生き、創造的な生活を提案すること。そして他者に貢献することで幸せは訪れると信じて活動をおこなっている。
- ・アクセス: npocld@gmail.com